

内装用軽量ガラス：プリュムシリーズ 施工要領書

施工の前に

この度は、《プリュムシリーズ》をご採用いただきましてありがとうございます。この製品を正しく安全に施工していただくため、施工前には、この要領書をよくお読みの上、正しく作業を行ってください。

安全に施工いただくために

この施工要領書に示した注意事項は安全に関する重要な内容です。人身事故や財産の損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。内容をよく理解して本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



この記号は行為を強制したり指示する内容を告げる物です。「必ず行っていただく事」を示しています。



この記号は、「禁止行動」を示しています。

Index

安全に施工いただくために	1
仕様/ 部材・部品一覧表	2
施工上の要点/ 注意事項	
施工について	4
下地の確認	5
割り付け計画	6
持ち運び/保管に関する注意事項	7
切断加工	
加工基準	9
加工手順	10
【内装一般壁】 施工前の確認と準備	
事前の確認	11
施工手順	
施工の流れ	12
1. 接着剤塗布 A. 樹脂パネル接着工法(TM工法)	13
B. 直貼り接着工法	14
2. ガラスパネルのセット	15
3. 目地材の取り付け例	
シーリング目地の場合	16
目地材を使用する場合	17
4. 施工後の確認	18
【キッチン周り】 キッチン周り(加熱機器廻り)への施工	
1. 参考構成図	19
2. 割り付けの基本と注意	
割り付け前の確認	20
割り付けの基本	21

⚠ 注意

- 本製品はガラス製品につき取り扱いの際は十分ご注意ください。
- 本製品は屋内専用です。屋外使用はできません。
屋内使用でも直射日光が長時間当る場所への使用は避けてください。
- 一般カラーガラス(ラコベルなど)や一般ミラーの施工方法では、強度不足になるため施工できません。必ず《プリュムシリーズ》の施工要領書(以下、本施工要領書と言う)に従って施工してください。
- 浴室などの温度の高い場所、結露しやすい場所での使用は避けてください。
- ストーブなどでガラスが加熱される場合「熱割れ」、「加工材料の劣化」の原因になりますので、極端に加熱される場所への使用はできません。
- ビス、釘などによる施工はできません。カケ、クラックの原因となります。
- 突き付け施工はできません。必ず目地材またはシーリング材(すき間0.5mm以上)を使用してください。
- 曲げ加工はできません。
- 以下に該当する低温環境下では施工しないでください。
①両面テープでの貼り付けの場合……10℃以下
②接着剤での貼り付けの場合………5℃以下
- 清掃する際は、傷が付かないように、きれいな水やぬるま湯を浸した、きれいな柔らかい布やスポンジなどで軽く拭いてください。スポンジの堅い部分の使用や強く擦ることは避けてください。
仕上げに、きれいな布でから拭きをしてください。
- 洗剤を用いる場合は、水やぬるま湯で薄めた中性洗剤を用い、仕上げ段階で良く拭き取ってください。
溶剤(シンナーなど)などの薬品はお使いにならないでください。

⚠ お願い

- 建築基準法、消防法に基づく市町村の火災予防条例などの法令・法規に従って施工してください。
- 接着剤、両面テープは弊社指定・推奨品(P3参照)のものを使用してください。
- 周囲の壁や床を傷つけないよう保護マットなどで養生してください。
- 衝撃を与えたり、負担のかかる持ち方をすると割れるおそれがあります。取り扱いには十分ご注意ください。
- 施工する前に、輸送時にガラスに破損・傷がないか、確認をお願いします。その後の責任は負いかねますのでご注意ください。
- 製品の施工については必ず本施工要領書に従ってください。

仕様 / 部材・部品一覧表

製品仕様

製品名	Lacobel® Plume / Plume® Mirror (ラコベルプリウム / プリウムミラー)
仕様	<p>製品厚み：5 もしくは 6ミリ(ガラス 2~3ミリ + 樹脂3ミリ)</p>
重量	約 5.0 もしくは 約 7.2kg/m ² (弊社実測値)
規格寸法	2,410 × 900mm
特徴機能	カラーガラス / 鏡 ガラス飛散防止性 不燃材料 (認定番号取得済) 現場切断加工可能 ホワイトボードマーカーで書き消し可能

※プリウムシリーズ厚さ5ミリと6ミリを同一面に使用する場合P6のレイアウト図を参考にしてください。

必要な工具【準備するもの】

	ガラスカッター (2ミリガラス切断)	ガラス切断用定規	カッター (樹脂カット用)	面取用砥石	はさみ (部材カット用)	手袋・保護めがね	接着剤
推奨品	日研ダイヤ NC-X03	すべり止め、傷防止ゴムの付いたガラス用定規	特専M型ロング中型(OLFA) 超極薄中ロング刃0.2mm厚 品番201B	・PVAジスコオフセット型砥石 ※粒度320(アイオン) ・フレキシブルダイヤモンドハンドラップ (3M)	万能電工はさみ PRO FM06-210 (FUJIYA)	すべり止め付手袋	LPE005 ご使用の場合 スーパーXゴールド (セメダイン)

※面取用砥石は、推奨品より粒度が粗いものを使用した場合、ガラス強度が低下することがあります。

別売り施工部材 (推奨品)

■施工用接着剤

工法	樹脂パネル接着工法 (TM工法)	直貼り接着工法
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・1ミリ厚の両面テープで仮固定、変成シリコーン系接着剤で本接着する。 ・3ミリの樹脂と1ミリの両面テープによる空間により、下地壁面の不陸吸収性がUP。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平坦な下地壁面にほとんど隙間なく直貼りする。 ※下地壁面の不陸がある場合は、樹脂パネル接着工法を適用ください。
施工法	<p>接着剤と両面テープの併用</p> <p>両面テープ 変成シリコーン系接着剤 《プリウムシリーズ》ガラスパネル</p>	<p>接着剤と両面テープの併用 両面テープのみの場合</p> <p>両面テープ 変成シリコーン系接着剤 両面テープ 《プリウムシリーズ》ガラスパネル</p>
推奨仮固定両面テープ	<ul style="list-style-type: none"> ・ボンド TM テープ W1-20 (20mm幅、t=1mm、コニシ) ・両面テープ CKBZ04 (20mm幅、t=1mm、パナソニック) ・専用仮止めテープ ZK-31 (20mm幅、t=1mm、アイカ工業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・EW-514 (25mm幅、t=0.14mm、日東電工) ・DCX-1018 (25mm幅、t=0.13mm、3M ジャパン)
推奨接着剤	<ul style="list-style-type: none"> ・1液 / 変成シリコーン系接着剤 POS シールマルチ、POS シールマルチスピード、POS シール (セメダイン) ・1液 / 変成シリコーン系接着剤ボンド MPX-1 (コニシ) ・1液 / 変成シリコーン系接着剤キッチンボード用接着剤 CKBZ03 (パナソニック) ・1液 / 変成シリコーン系接着剤エコエコボンド不燃化粧材用接着剤 SE-1 (アイカ工業) など 	

■目地用シーリング材

推奨 目地弾性シーリング材	1液 / シリコーン系シーリング材 ・ボンドシリコンコーク 330ml (コニシ) 13色 アイボリー、アルミ、アンバー、クリアー、グレー、ステンカラー、ダークアイボリー、ダークアルミ、ダークブラウン、ニューブルー、ブラック、ホワイト、ライトグレー
	1液 / シリコーン系シーリング材 ・セメダイン 8060 プロシリコーンシーラント (セメダイン) 8色 クリア、ホワイト、ブラック、グレー、アイボリー、アルミ、ダークブラウン、アンバー
	1液 / 変成シリコーン系接着剤 ・POS シールマルチ、POS シールマルチスピード、POS シール (セメダイン) ・ボンド MPX-1 (コニシ) ・キッチンボード用接着剤 CKBZ03 (パナソニック) ・エコエコボンド不燃化粧材用接着剤 SE-1 (アイカ工業) ※ホワイトボード用途としては不適。目地部に付着したマーカーが残る場合があります。

施工上の要点 / 注意事項

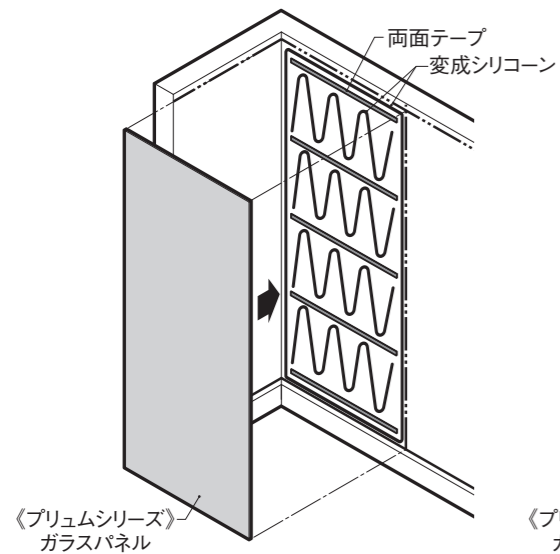
施工について

■推奨施工法…下地の状態により、工法を選択してください。

樹脂パネル接着工法 (TM 工法)

- 3ミリの樹脂と1ミリの両面テープによる空間により、直貼り接着工法に比べ、下地壁面の不陸吸収性がUPLします。

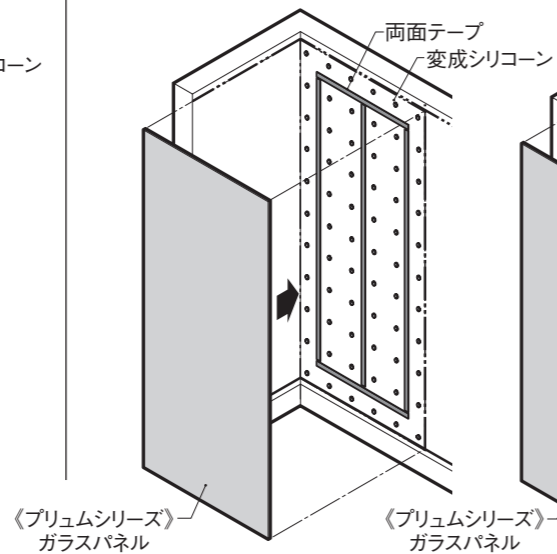
接着剤と両面テープの併用



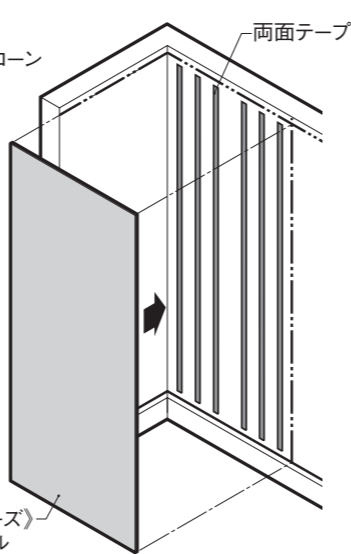
直貼り接着工法

- 平坦な下地にほとんど隙間なく直貼りする工法です。下地の不陸がある場合は、樹脂パネル接着工法を適用ください。

接着剤と両面テープの併用



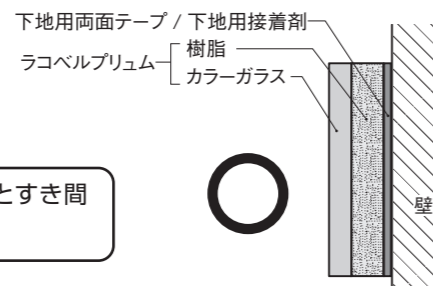
両面テープのみの場合



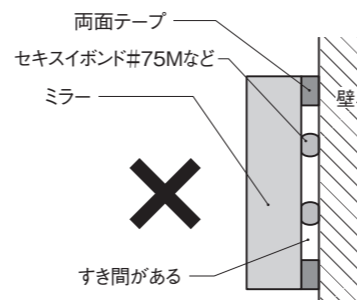
- ⚠ 貼り付けは推奨の両面テープ・接着剤 (P3) を使用してください。
- ⊘ 従来のカラーガラスやミラーの施工方法では施工できません。

❗ **お願い** 両面テープ施工の場合は壁とすき間なく貼ってください。

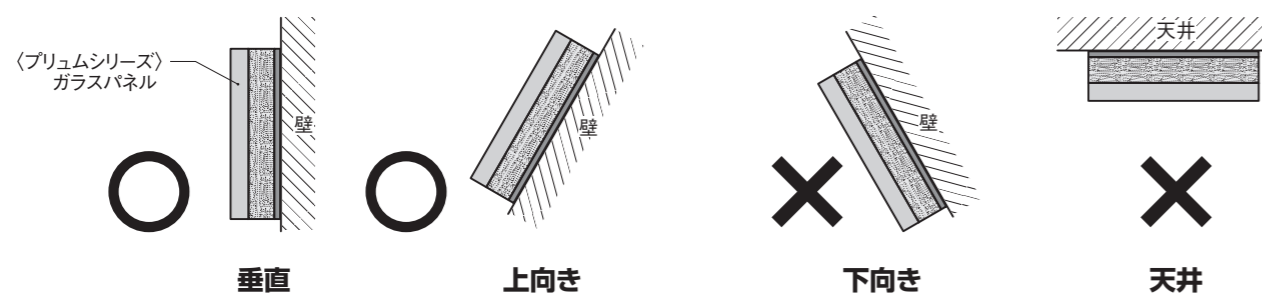
<プリムシリーズ>



従来のカラーガラスやミラーの施工方法



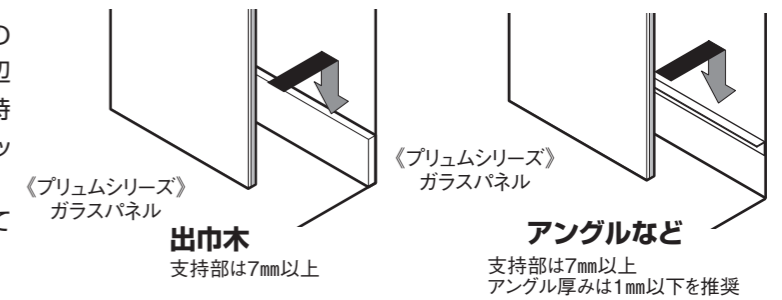
■<プリムシリーズ>ガラスパネルは垂直、または上向き壁面に施工してください。



❗ **お願い 必ず下辺を支持してください。** ※支持部は7mm以上の出巾木、アングルなど

<プリムシリーズ>ガラスパネルと下地壁面との接着力を長期間保持させるために、パネルの下辺には出巾木やアングルなどを設置し、下辺を支持するように貼り付けてください。下辺のガラスエッジ部分を保護する目的もあります。

なお、出巾木やアングルは平坦なものを使用してください。



下地の確認

■**施工可能な下地** 石膏ボード・ケイ酸カルシウム板 (表面加工あり)・金属板

■**施工に適さない下地** 湿気を帯びた下地、ALC 躯体・RC 壁面
モルタル面、ケイ酸カルシウム板 (表面加工なし)、合板、塗装面・壁紙・クロス面・化粧面

⊘ 施工に適さない下地をご使用の場合は石膏ボードなどを貼ってください。

⚠ 下記の注意事項に従って安全に使用してください。

ご注意

- 下地材の選定と壁面構造の作製は建築基準法や火災予防条例などの法令・法規に適合するように行ってください。
- 適切な間柱間隔に固定された、またはコンクリート壁面などに固定された、丈夫で平坦な下地壁面に使用してください。
押すことで湾曲するような下地壁面にはご使用いただけません。
- 石膏ボードやケイ酸カルシウム板 (表面加工あり)、金属板など、推奨接着剤に適合する下地壁面に固定することができます。
(適合する下地壁面の材質は、各接着剤メーカーのカタログ、HP などでご確認ください)
- 下地壁面の表面は、推奨接着剤の使用注意事項に従い、離型材や油分・汚れ・錆びなどを除去し、濡れている表面や高い含水率の木材などへの接着は避けてください。
- 内装制限を受ける部位にご使用の場合は、不燃下地材 (石膏ボード (t=12mm以上推奨) やケイ酸カルシウム板 (t=5mm以上推奨) など) の上に接着してください。
- 下地が平坦ではない場合は、石膏ボードなどを捨て貼りして、その表面に接着してください。
- 壁紙がある場合は、経年劣化による壁紙自体の接着はがれなどの影響を受ける場合があるので、壁紙をはがしてください。
- 下地壁面がモルタル面、ケイ酸カルシウム板 (表面加工なし)、合板などの場合、予め表面にプライマーを塗る必要があります。
各接着剤に適合するプライマー品種と下地の組み合わせをご確認ください。
(各接着剤メーカーのカタログ、HP などでご確認ください)。

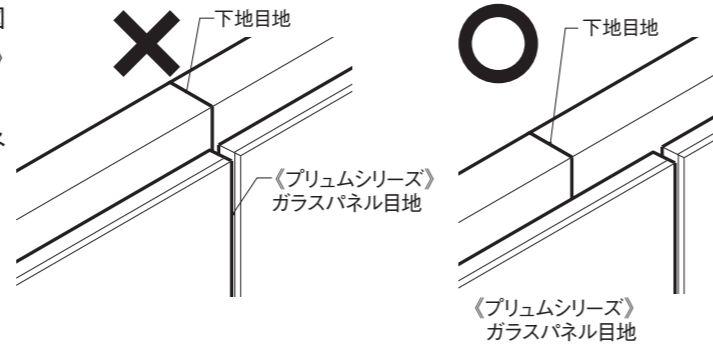
割り付け計画

●割り付けは、P9の加工基準を遵守の上、ご計画ください。

割り付け時の注意

- 突き付け施工はできません。
- 出巾木(7mm以上)の上、またはそれに相当する支持部品の上に施工してください。

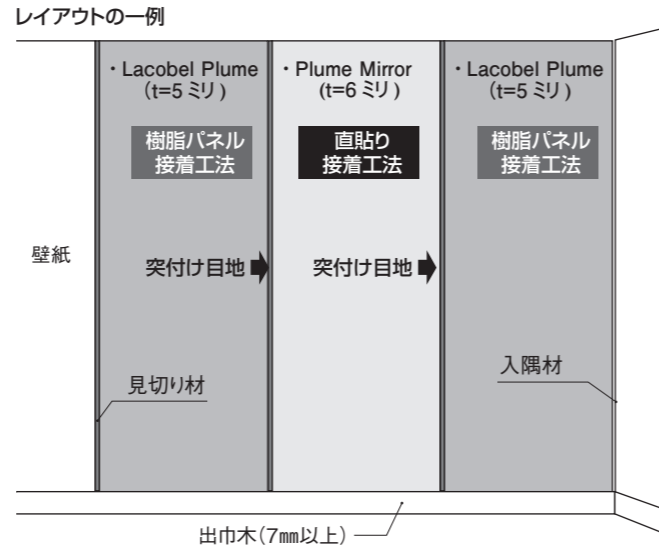
- 基本墨(陸墨・通り芯など)を確認し、基本墨を基準に、施工図面より取付墨を出し、施工箇所の下地に《プリュムシリーズ》ガラスパネルの割り付けを行ってください。
- ▲割り付けの際、下地の目地と《プリュムシリーズ》ガラスパネルの目地が重ならないようにしてください。



■プリュムシリーズ5ミリ厚と6ミリ厚の施工

5ミリ厚を「樹脂パネル接着工法」、
6ミリ厚を「直貼り接着工法」
で施工いただくと面合わせが可能です。

同一接着工法を用いる場合、突付け部に目地材を挿入いただくと段差が目立ちません。
ミラーの場合であればミラーが前に出ることで、少しアクセントのある仕上がりとなります。



持ち運び / 保管に関する注意事項

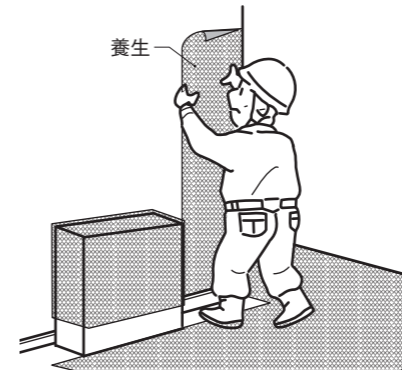


注意

- 本製品はガラス製品につき取り扱いの際は十分ご注意ください。
- 運搬・作業時にはすべり止めの手袋を着用するとともに、保護メガネを着用してください。

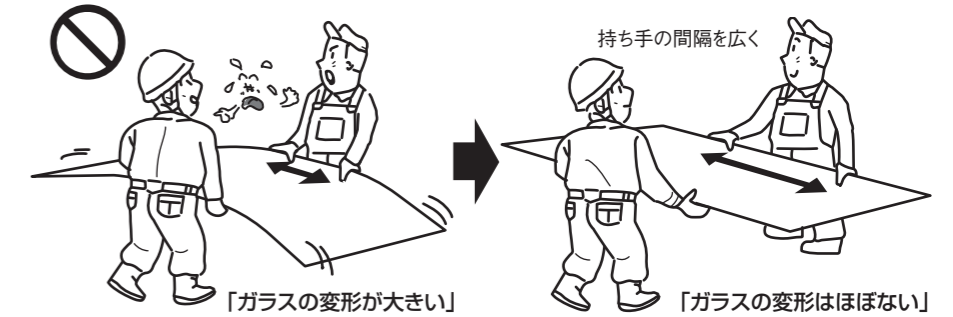
■周辺部は養生してください

- 作業現場の周辺部や家具などには、傷つけたり、ガラスの破損を避けるための養生をしてください。



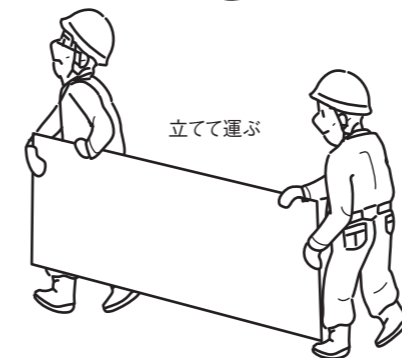
■平持ちはできるだけ避けてください。

- 《プリュムシリーズ》ガラスパネルが弓形に大きく変形すると破損する可能性があります。
- 長手方向に向かって持つと弓形に変形しやすく破損原因となります。
- 作業は2名で実施し、持ち手の間隔を広げて、ガラスパネルが変形しないように持ってください。



■立てて持ち運んでください

- 持ち運び際には《プリュムシリーズ》ガラスパネルがたわまないように、立てて持ち運んでください。
- 大サイズの場合は2人作業で立てて持ち運んでください。



■ガラスの角やエッジをぶつけないようにご注意ください

- 《プリュムシリーズ》ガラスパネルの端部やコーナーをぶつけるとガラスが破損する場合があります。
- ガラスを長手方向に起こす場合は天井などにぶつけないよう、運ぶ際は床や壁などにぶつけないようにご注意ください。



■緩衝材を敷いてください

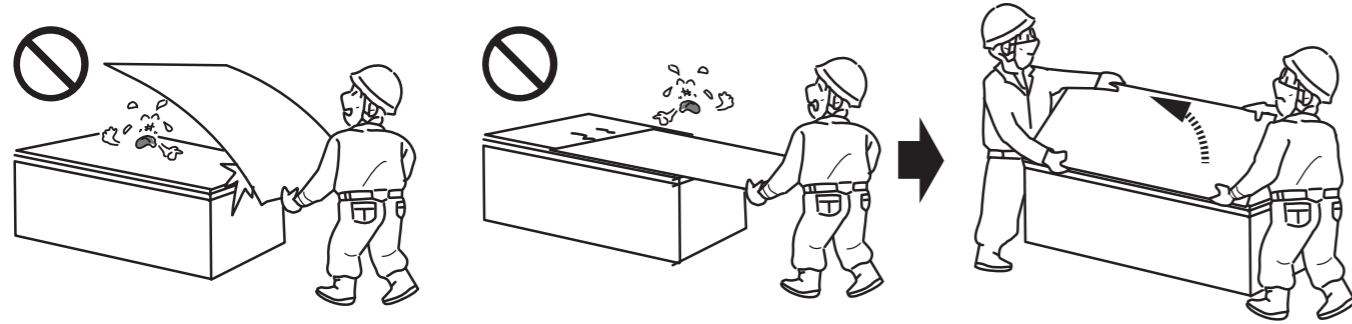
- 搬送中に休憩する場合は、平坦な段ボールなどの緩衝材の上にガラスパネルをゆっくりと置いてください。ガラスの角を立てたり、石床のような硬い床面に直接設置することは避けてください。



持ち運び / 保管に関する注意事項

■持ち上げ時のご注意

- 《プリュムシリーズ》ガラスパネルの一部を支点にして持ち上げないでください。
- 引きずらないでください。



■1500mm以上の場合

- サイズ1500mm以上の場合はたわみが発生しやすいため、注意してください。

ポイント 《プリュムシリーズ》ガラスパネルの表面にT字アルミアングルやステンボードなどの剛性がある部材を補助材として梱包テープ等で固定することで、ハンドリング時に生じるガラスの変形を抑制することができます。

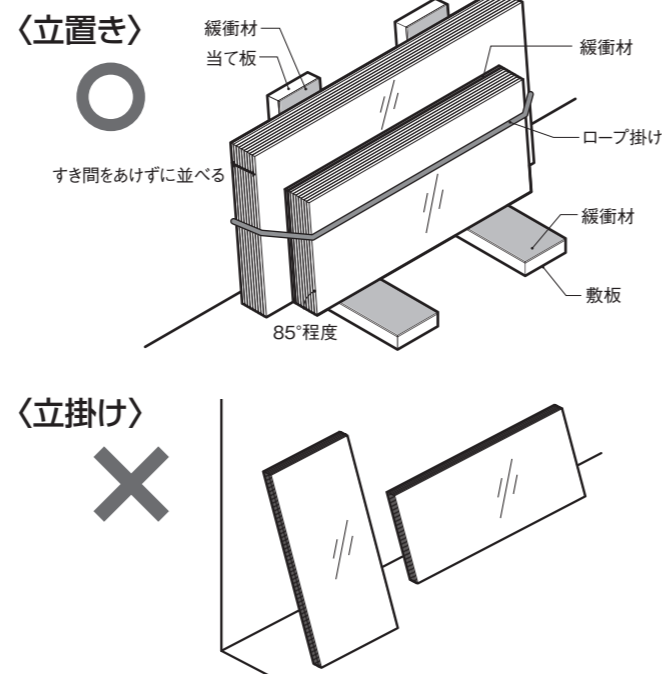
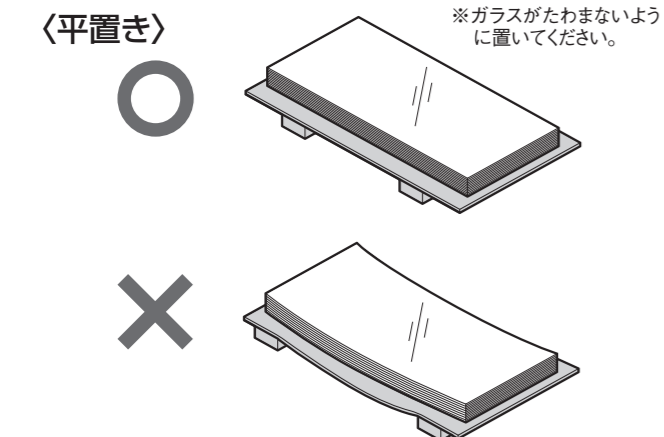
【補助材制作の例】

※補助材を利用したイメージ

保管に関する注意

■立置き、平置きとします。

- 在庫保管は、直射日光や雨のあたる場所を避け、できるだけ乾燥した場所を選んで、破損・汚れのないように注意して保管してください。



切断加工

- 《プリュムシリーズ》ガラスパネルは切断加工することができます。
- ※穴あけや切り欠きなどの加工はできません。
- 加工にあたっては下記「加工基準」を参照ください。



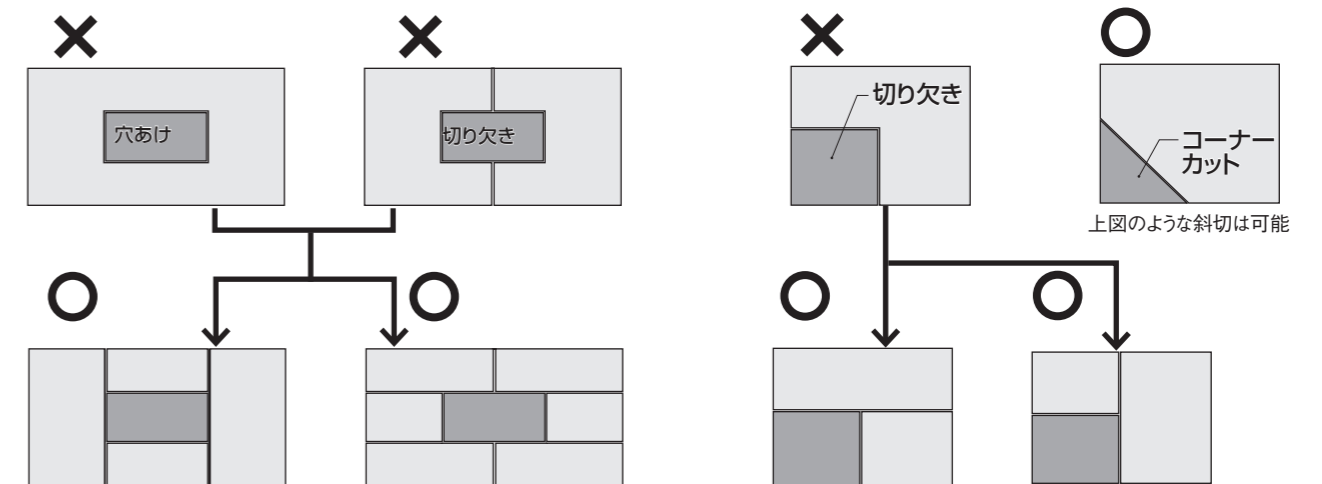
- 作業に当たっては、必ず手袋、保護メガネを着用してください。
- 加工した角部で切創する可能性があるため、必ず面取用砥石 (P2参照) などでカット断面の角部を面取りしてください。



加工基準

現場での穴あけや切り欠きなどの加工はできません。
当社の出荷形状は矩形のみとなります。

- 《プリュムシリーズ》の穴あけや切り欠きなどの加工は、クラックの発生や強度の低下を招きますので、避けてください。



施工前の確認と準備

切断加工

加工手順

①ガラスに切り線を入れる

切断位置に定規を合わせ、ガラスカッターで切り線を入れます。

※切り線は最初から最後まできっちり入れてください。

※すべり止め付定規だと作業がしやすくなります。

②ガラスの切断

切り線を開くように、山折りに曲げて、ガラスを折ります。

③樹脂層の切断

樹脂層を軽く折り曲げた状態で、残った樹脂部分にカッターを入れて樹脂層を切り離します。

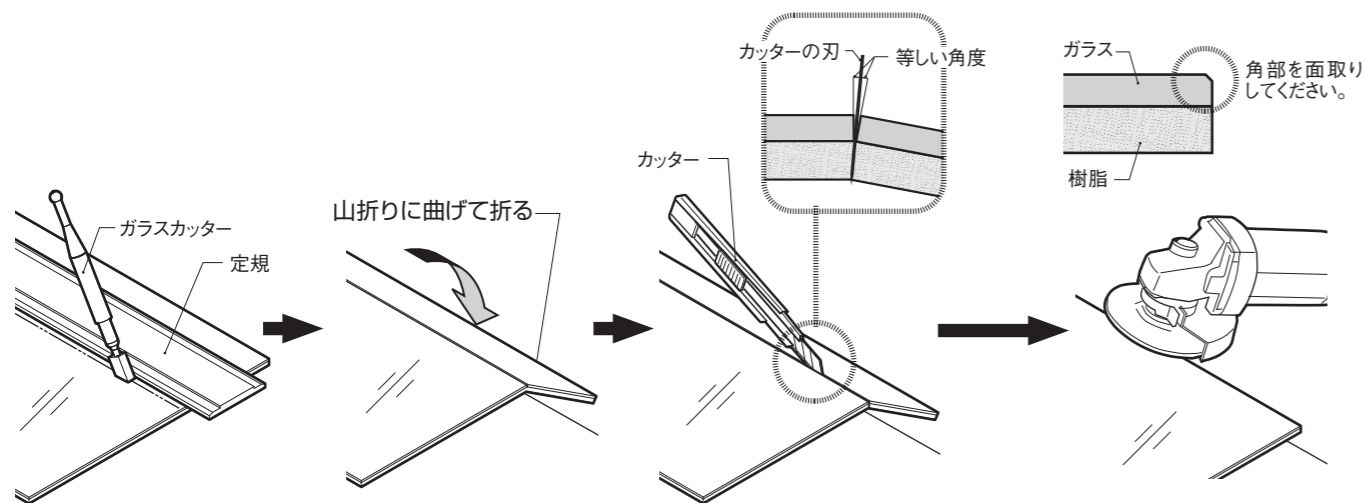
※切断面が等しい角度となるよう、カッターの刃は斜めに当てて切断してください。

※カッターの刃に接着剤が付いた場合は、エタノールなどで拭き取ってください。

④切断面の処理

カットした角部で手を切る可能性があるため、面取用砥石で角部を面取りしてください。

※切断面は必ず面取りを実施してください。
(製品状態の《プリウムシリーズ》は面取り済みです)



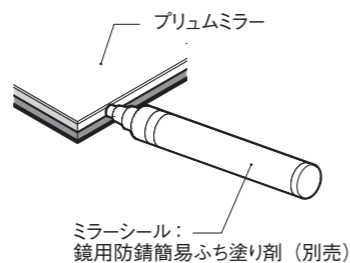
プリウムミラーの場合

切断後のエッジ処理(鏡面層の保護)

プリウムミラーの切断辺は、鏡面の劣化を防ぐために必ずミラーシール(鏡用防錆簡易ふち塗り剤)によるエッジ処理を実施してください。

ミラーシールの使い方

よく振ってから塗布してください。
ペン芯を数回ノックして、液を先端に染み渡らせてから使用ください。
プリウムミラーのエッジに先端を当て、防錆液を塗ります。
3~5分で乾燥します。



1. 事前の確認

確認事項	対応方法
<input type="checkbox"/> 施工可能な下地材(P5)である	NO 石膏ボードなど施工可能な下地材(P5)に施工してください。
<input type="checkbox"/> 壁面は水平・垂直である	NO 補修が必要です。
<input type="checkbox"/> 壁面に不陸はない	NO 1mm以上の段差、5mm以上の不陸がある場合、補修が必要です。
<input type="checkbox"/> 下地に浮きはなし	NO タッカーなどで補修します。
<input type="checkbox"/> 下地にゴミ、ほこり、汚れはない	NO 下地のゴミ、ほこり、汚れが著しい場合接着不良の原因となります。中性洗剤などで汚れを除去し、乾いた状態にしてから施工を始めてください。
<input type="checkbox"/> 下辺は巾木などで支持される	NO 必ず下辺を支持してください。 ※支持部は7mm以上の出巾木、アングルなど
<input type="checkbox"/> 本施工要領書を確認した	NO 施工前には、本施工要領書をよくお読みの上、正しく作業を行ってください。
<input type="checkbox"/> 施工手順動画を確認した	NO ラコベルプリウム商品サイト【施工方法解説動画】をご確認ください。 https://www.asahiglassplaza.net/products/lacobel_plume/special2/



施工手順

施工の流れ

※本手順は、参考例に従って標準的な手順を示しています。

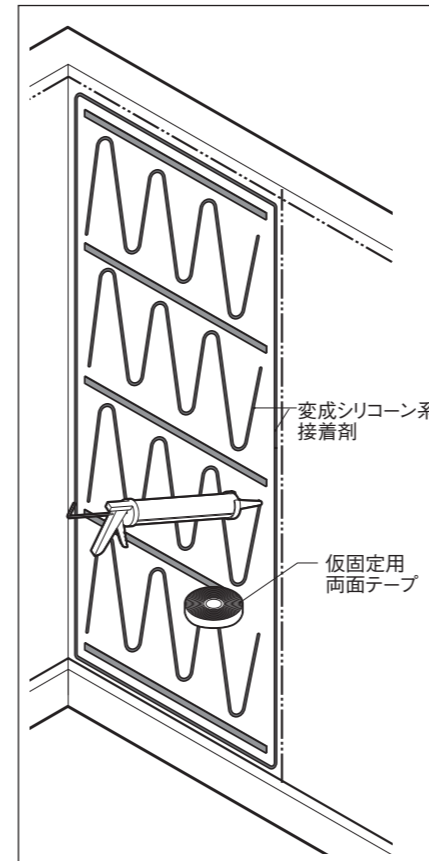
1. 接着剤の塗布	<ul style="list-style-type: none"> → A. 樹脂パネル接着工法(TM工法) 13 → B. 直貼り接着工法(下地壁面がフラットな場合) 14
2. 《プリュムシリーズ》ガラスパネルのセット 15
3. 目地材の取り付け	<ul style="list-style-type: none"> → シーリング目地の場合 16 → 目地材を使用する場合 17
4. 施工後の確認 18

1. 接着剤塗布

A. 樹脂パネル接着工法 (TM工法)

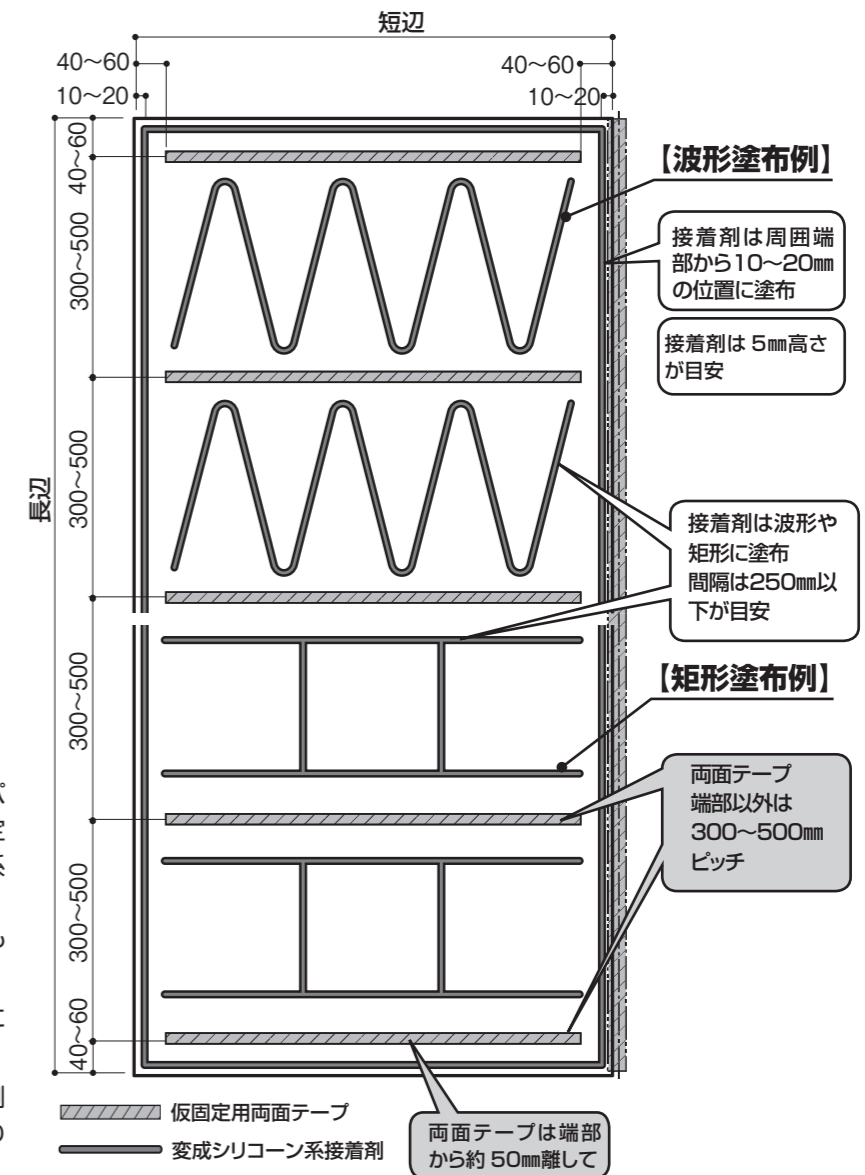
【接着剤と両面テープの併用】

3ミリの樹脂と1ミリの両面テープによる空間により、下地壁面の不陸を吸収します。



- 【両面テープ貼り付け/接着剤塗布パターン例】を参考にして、1mm厚の仮固定用両面テープを貼り、変成シリコーン系接着剤を塗布します。
- ※両面テープと接着剤は、P3に記載のものを使用してください。
- 接着剤塗布量は、2410×900mm 1枚に対して約333mlです。
- 両面テープおよび接着剤は、下地壁面に貼る/塗布する方が、作業性がよくなります。
- ※《プリュムシリーズ》ガラスパネルの樹脂面側に貼る/塗布してもかまいません。
- 両面テープの方向性は縦方向でも横方向でも、どちらでも問題ありません。
- ガラスパネル位置周囲は必ず接着剤を塗布してください。

【両面テープ貼り付け / 接着剤塗布パターン例】



禁止 5℃以下の環境下では接着強度が低下するため施工しないでください。

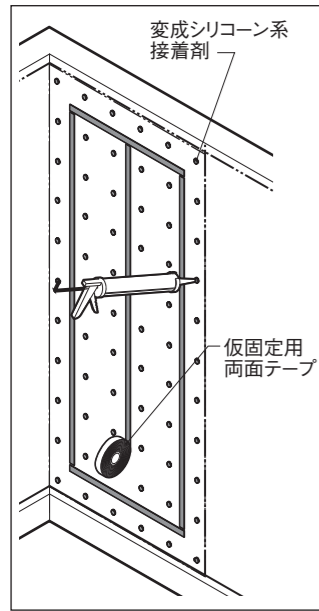
⚠ 接着剤塗布の注意点

- 塗布量が少ない場合、はがれなどの原因となります。
- 接着剤塗布後10分以内に貼り付け圧着してください。
- 5℃以下の環境下では施工しないでください。

1. 接着剤塗布

B. 直貼り接着工法 (下地壁面がフラットな場合)

【接着剤と両面テープの併用】

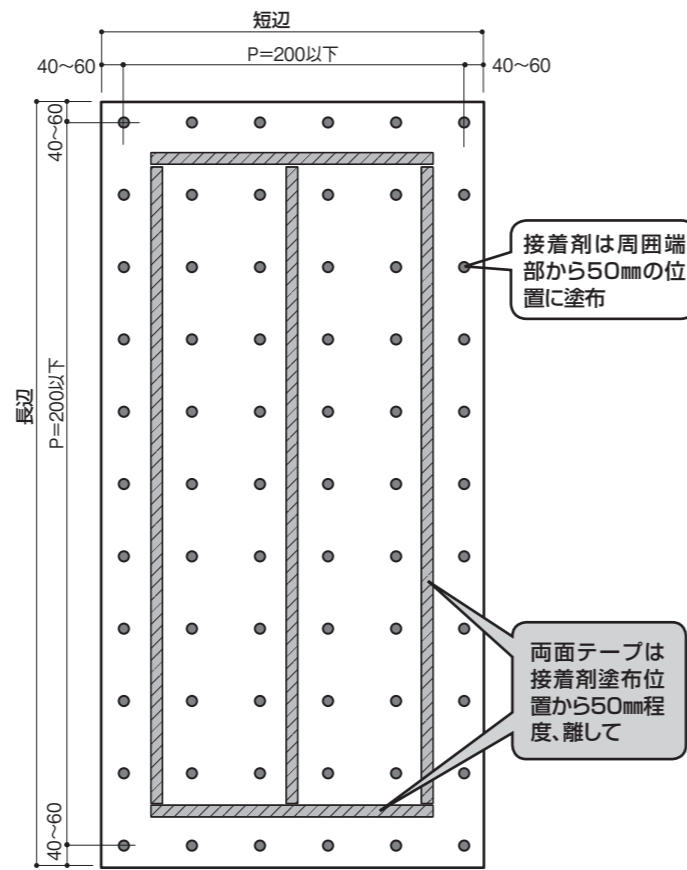


- 推奨接着剤を下地材または《プリュムシリーズ》ガラスパネル裏面(樹脂面)に右図のように塗布してください。
- ※下地壁面に接着剤を塗布する方が、ガラスパネルの取り回し回数が少なくなるため、作業性が向上します。
- 併用する推奨両面テープは、接着剤が重ならないよう、接着剤塗布位置から50mm程度離してください。
- 接着剤は圧着時に両面テープの厚み程度に広がるよう、1カ所あたり0.4g程度を目安に塗布してください。

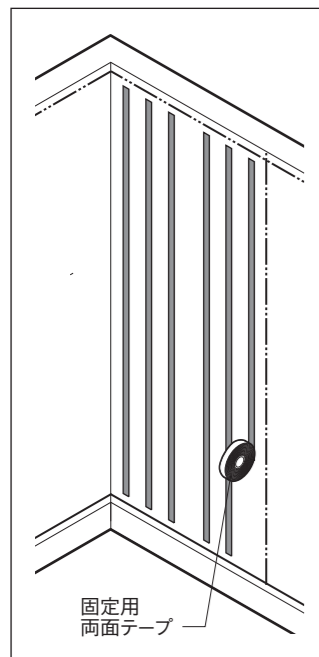
⚠ 接着剤塗布の注意点

- 塗布量が少ない場合、はがれなどの原因となります。
- 接着剤塗布後10分以内に貼り付け圧着してください。
- 5℃以下の環境下では施工しないでください。
- 接着剤の養生期間中は梱包テープなどで仮押さえしてください。

【両面テープ貼り付け / 接着剤塗布パターン例】

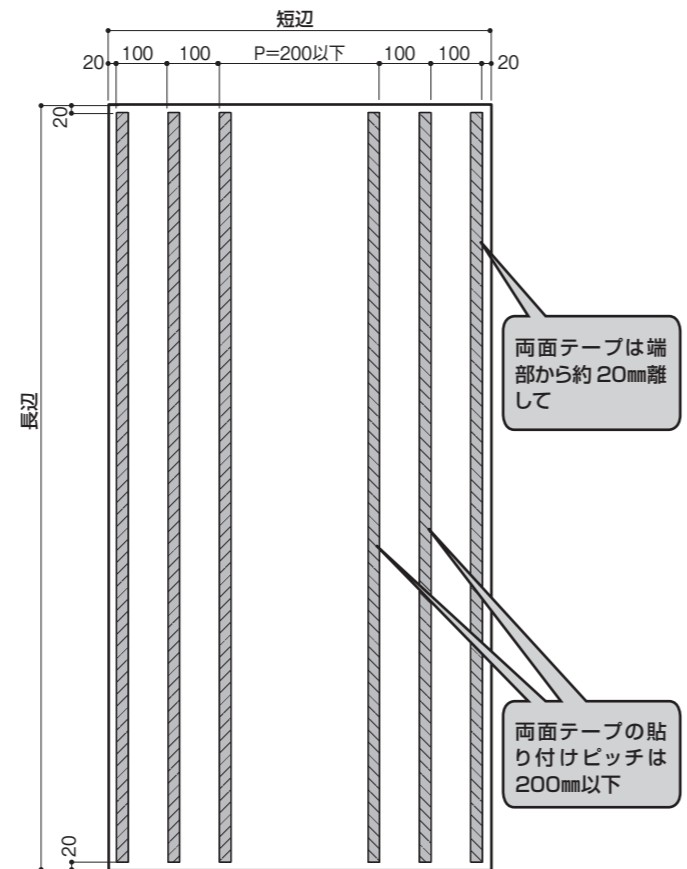


【両面テープのみ】



- 推奨テープを下地材または《プリュムシリーズ》ガラスパネル裏面(樹脂面)に右図のように貼り付けてください。
- 端部から20mm開け、25mm幅の両面テープを100mmピッチで両端部から中央に追って貼り付けます。
- ピッチ調整が必要な場合は中央部で200mm以下の範囲にして調整してください。
- ※下地壁面に貼り付ける方が、ガラスパネルの取り回し回数が少なくなるため、作業性が向上します。
- 1** 接着を確実なものにするため、圧着作業は十分に実施してください。
- 10℃以下の環境下では施工しないでください。

【両面テープ貼り付けパターン例】



2. 《プリュムシリーズ》ガラスパネルのセット

樹脂パネル接着工法(TM工法)

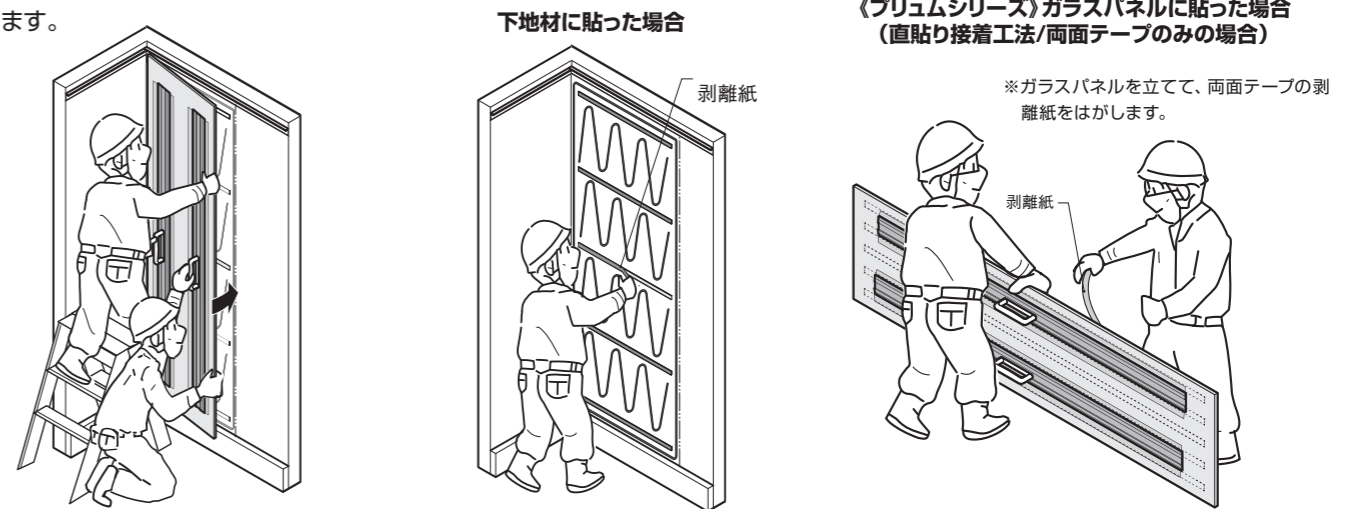
直貼り接着工法
【接着剤と両面テープの併用】

【両面テープのみ】

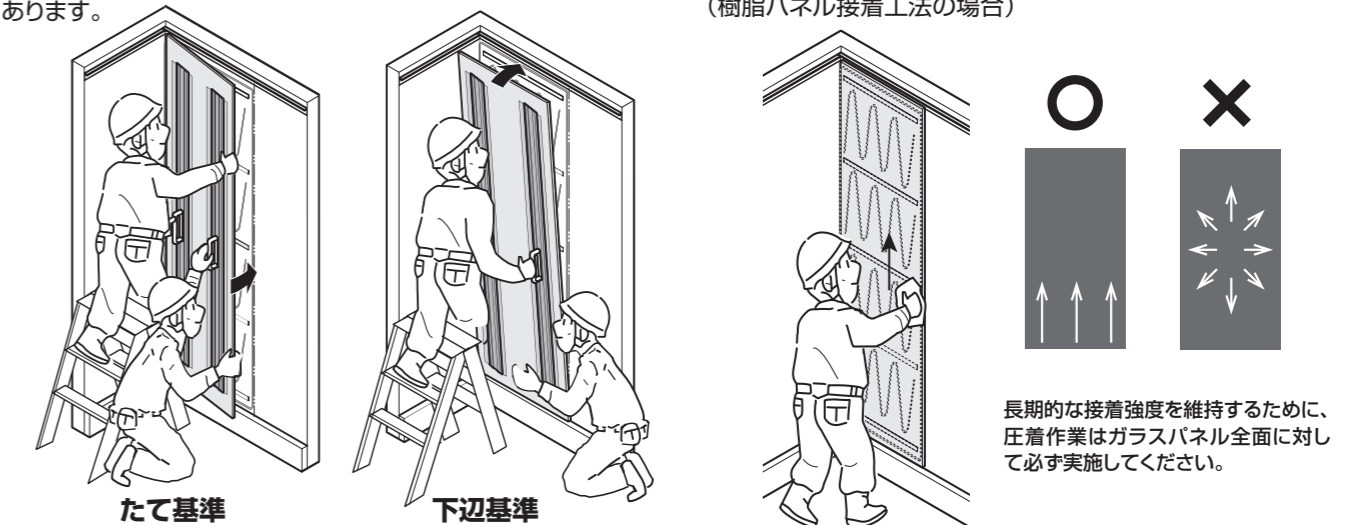
⚠ 注意 接着後に位置の調整はできません。位置の確認をしてから貼り付けてください。

※説明図は樹脂パネル接着工法(TM工法)縦貼りですが、横貼りも同様の要領で施工します。

- ①施工位置確認のため、両面テープをはがす前に《プリュムシリーズ》ガラスパネルを仮当てし、位置と寸法を確認します。
- ②両面テープの剥離紙をはがします。

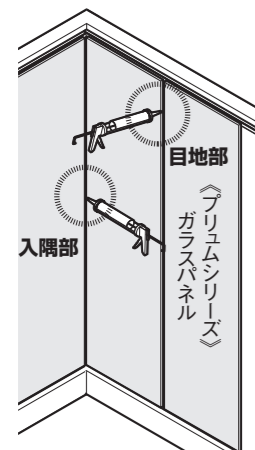


- ③墨出した貼り付け位置に、ガラスパネルをセットします。
- ④出巾木やアングルなどに《プリュムシリーズ》ガラスパネルの下辺を合わせます。
- ⑤貼り付け位置を調整し、ゆっくりと下地面に貼り付けます。
※中央部に浮きが発生しないように、端部から一定方向を決めて貼り付けます。
※端部からランダムに押さえると、浮きや歪みのでるおそれがあります。
- ⑥貼り付けが完了したら、布などでガラス表面を拭くように、しっかりとガラスを壁面に圧着してください。(ガラス表面の隅々まで拭くようにしてください。)
※ガラス面を傷つけないようにご注意ください。
※圧着の際に図のように一定方向を決めて貼り付けると、歪みが少なくきれいに貼ることが出来ます。
※接着剤部分は泣き別れしない程度に圧着させてください。(樹脂パネル接着工法の場合)



長期的な接着強度を維持するために、圧着作業はガラスパネル全面に対して必ず実施してください。

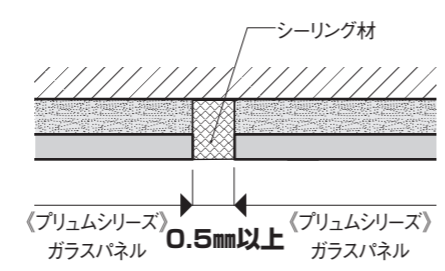
3. 目地材の取り付け例《シーリング目地の場合》



目地部
《プリュムシリーズ》
ガラスパネル
入隅部

⚠ 割り付け時の注意

- 施工時のガラス同士の接触による破損を防止するために、突き付け目地間隔は0.5mm以上としてください。
- 目地用弾性シーリング材はガラス部分の小口が埋まる程度に塗布してください。

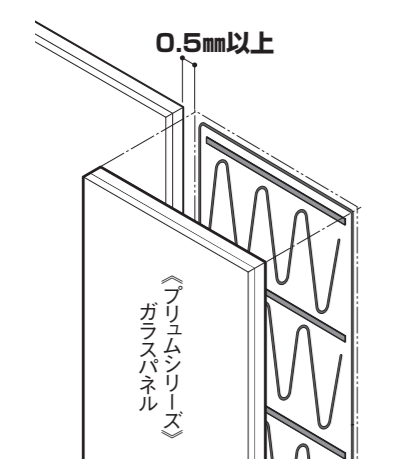
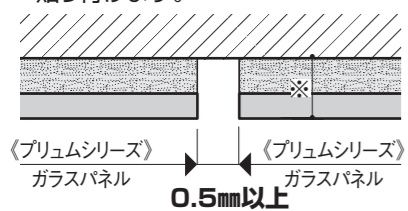


シーリング材
0.5mm以上
《プリュムシリーズ》
ガラスパネル

目地部のシーリング

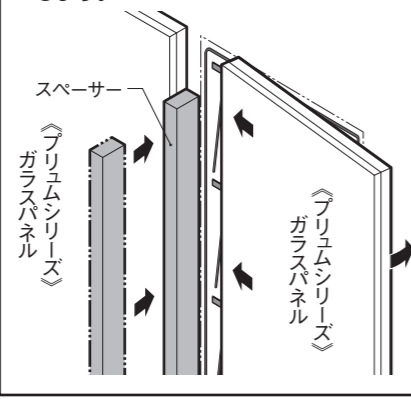
① ガラスパネルの貼り付け

- 必要な目地幅(0.5mm以上)のすき間を空けて隣り合うガラスパネルを貼り付けます。



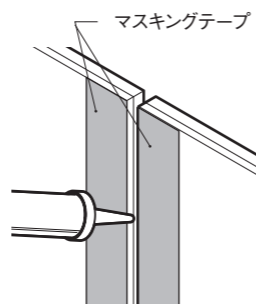
【スペーサーの利用】

- 目地幅に対応した厚さ(0.5mm以上)のスペーサーを準備し、1枚目のガラスパネル端部にテープなどで固定した後、突き合わせるガラスパネルを押し当てて貼り付けます。
- 貼り付けたガラスを十分に圧着し、養生(2時間程度)した後、スペーサーを外し、目地用弾性シーリング材を充填します。

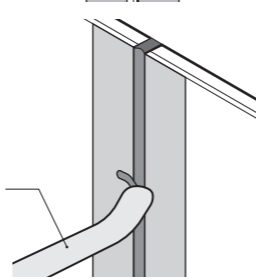


② 目地シーリング

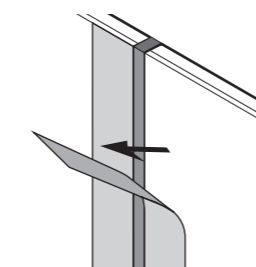
- マスキングテープを貼り付け、奥までしっかりとシーリング材を注入する



- ヘラなどを用いて、余分なシーリング材を掻き取る

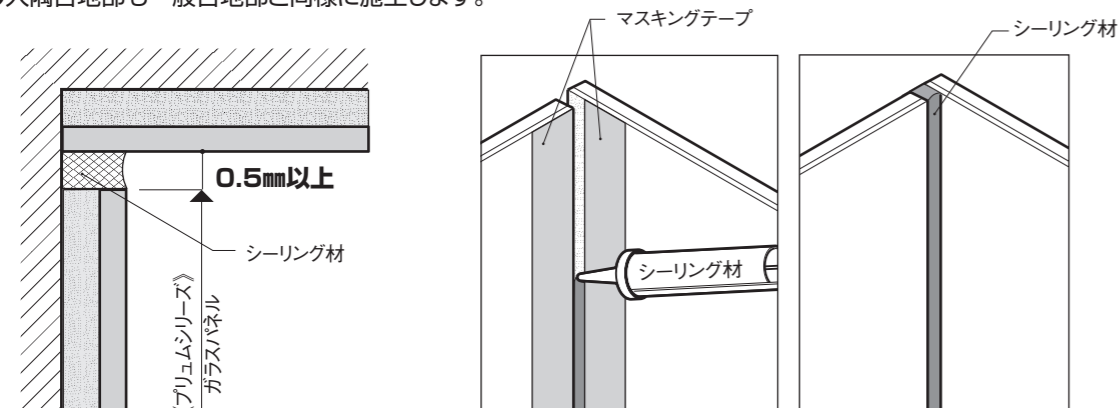


- マスキングテープをゆっくりと内側にはがす

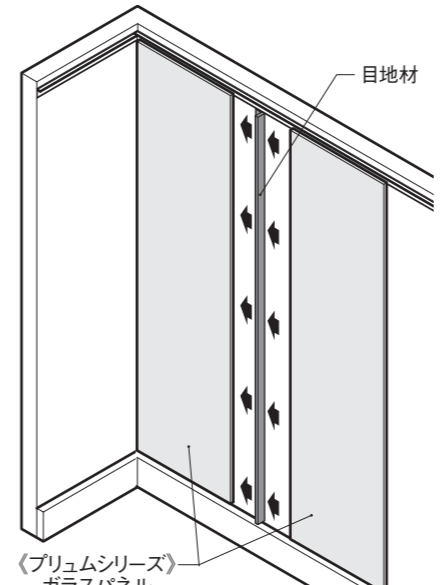


入隅目地部のシーリング

- 入隅目地部も一般目地部と同様に施工します。

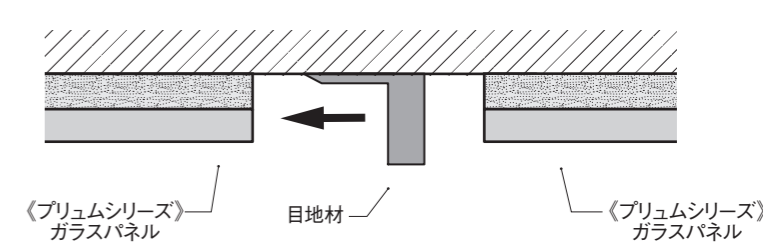


3. 目地材の取り付け例《目地材を使用する場合》




目地材
《プリュムシリーズ》
ガラスパネル

● 目地材を使用する場合の施工方法例



《プリュムシリーズ》
ガラスパネル
目地材
《プリュムシリーズ》
ガラスパネル

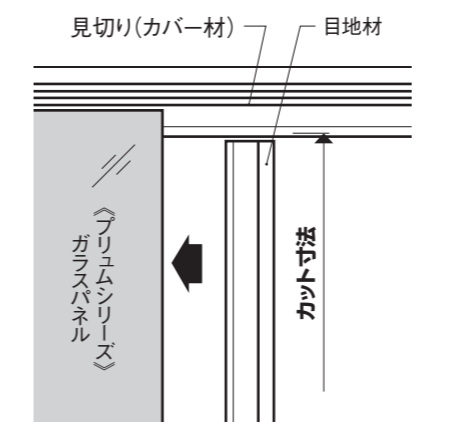
*ガラスパネルの厚みは5mmもしくは6mmです。
ガラスパネル保護のため、6.5mm以上の見切り材をお使いください。
*プリュムパネルの歪み防止のため、見切り材のフィン部分は薄いものをお使いください。



《プリュムシリーズ》
ガラスパネル

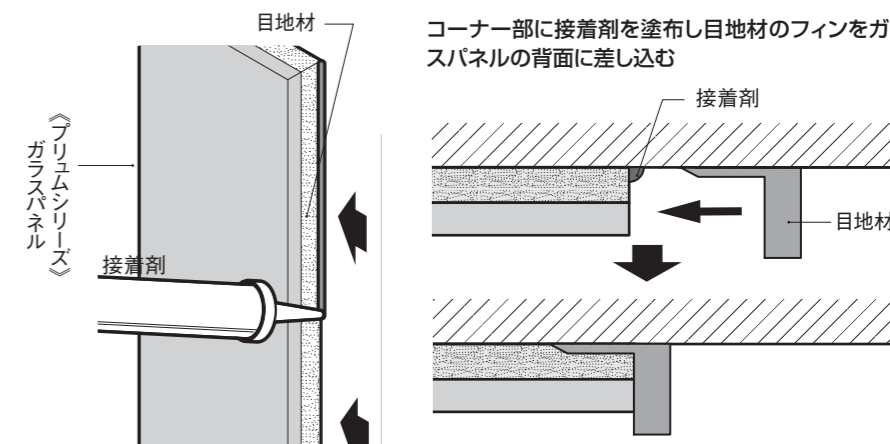
① 目地材のカット

- 目地材は見切り(カバー材)ベース下端までを実測し、実測寸法マイナス2mmにカットします。



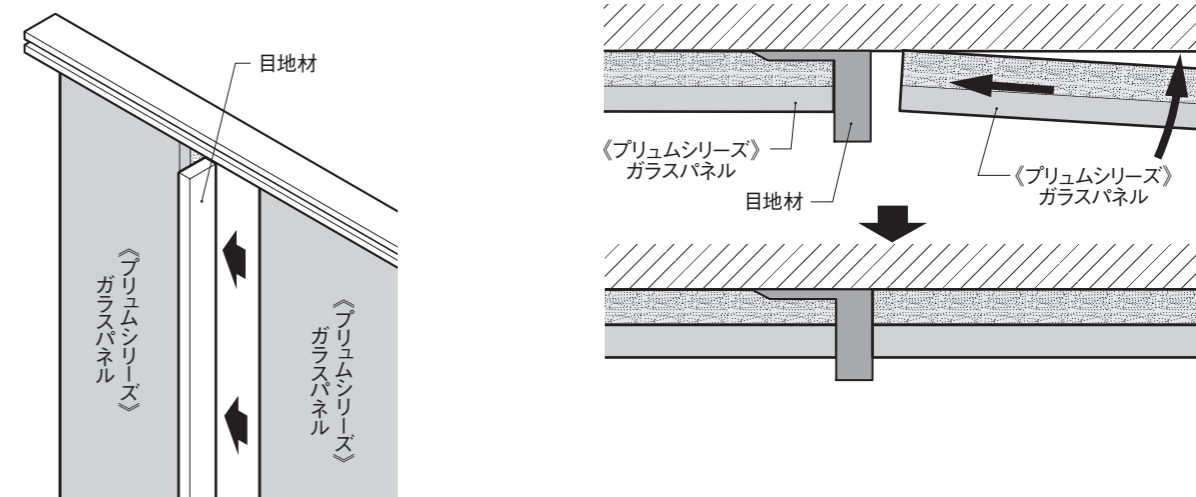
② 目地材の取り付け

- 下地面とガラスパネルのコーナー部に接着剤を塗布します。
- 目地材の保護テープをはがし、ガラスパネルの側面に、目地材のフィンを押し込みます。
ガラスパネルと目地材の間にすき間が生じないように密着させてください。



③ 2枚目以降の貼り付け

- 2枚目以降のガラスパネルも、目地材の間にすき間が生じないように密着させながら、1枚目と同様に貼り付けます。



施工後の確認

確認事項・1

- 《プリュムシリーズ》ガラスパネルを貼り付けた後、しっかり圧着させたか?(P15確認)

NO

対応方法

両面テープの接着部を、布などを使用してしっかり押さえつけ、下地材と十分圧着させてください。
特に下部や上部など、圧着し忘れないように端部までしっかり押さえつけて圧着してください。



確認事項・2

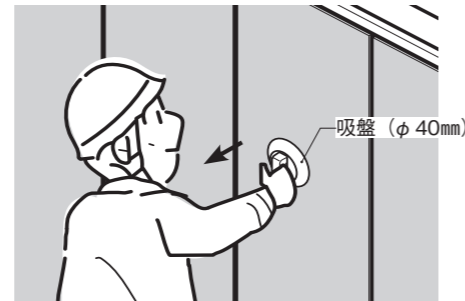
[ラコベルプリュム直貼り接着工法「両面テープのみ」の場合]

- ラコベルプリュムが下地材にしっかり接着されているか吸盤にて確認したか?

NO

対応方法

下地材にしっかり接着されたか、吸盤(直径約40mm)をガラス面に貼り付けて引っ張り、ガラスが浮かないか確認してください。
しっかり接着されていない場合は、再度圧着してください。



ラコベルプリュム

キッチン周り(加熱機器周り)への施工

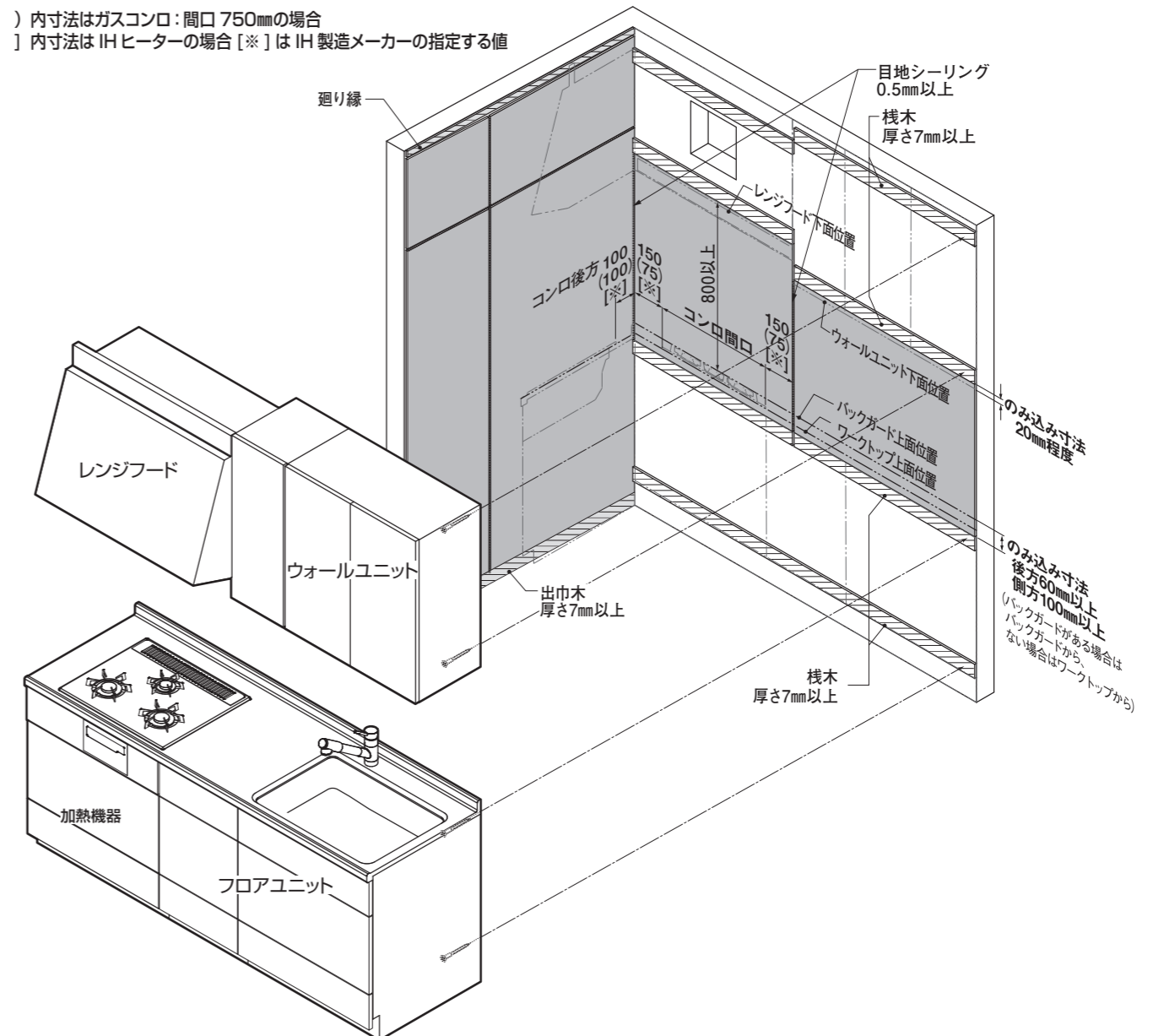
注意

- 火気設備の周囲に施工する場合は、防火上の規定に従ってください。
※コンロの周囲の壁面構造は各自治体の火災予防条例などにより規定されています。
各自治体の規定に従った構造としてください。
- 業務用コンロや調理器具に近接する部位には使用しないでください。
- 加熱された鋼類が直接ラコベルプリュムに触れる事がないようにしてください。
- ラコベルプリュム施工上の注意を合わせてお読みください。
※下地は、不燃材料(石膏ボードなど施工可能な下地材(P5参照))を使用してください。
※弊社指定の両面テープ、または接着剤を使用してください。(P3参照)
- 遮熱板を使用する際は、各自治体の火災予防条例などにより規定されることがあります。
確認の上、使用してください。また、規定に従った構造としてください。

1. 参考構成図 (システムキッチン：(ガス・IH共通)ビルトインコンロ間口600の場合)

() 内寸法はガスコンロ：間口750mmの場合

[] 内寸法はIHヒーターの場合 [※] はIH製造メーカーの指定する値



ラコベルプリュム取り扱い上の注意

- キッチンユニットを設置する際は、ラコベルプリュムに強くぶつけないように注意してください。
※固く上がったものでガラス面に衝撃を与えた場合、破損するおそれがあります。
※ラコベルプリュムのエッジ部分に強い衝撃があった場合、破損するおそれがあります。

2. 割り付けの基本と注意 ●割り付けは、P10の加工基準を遵守の上、ご計画ください。

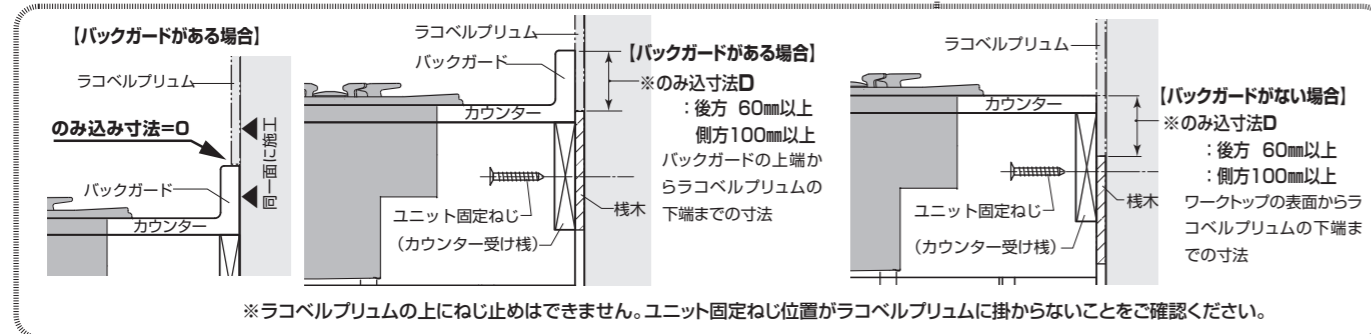
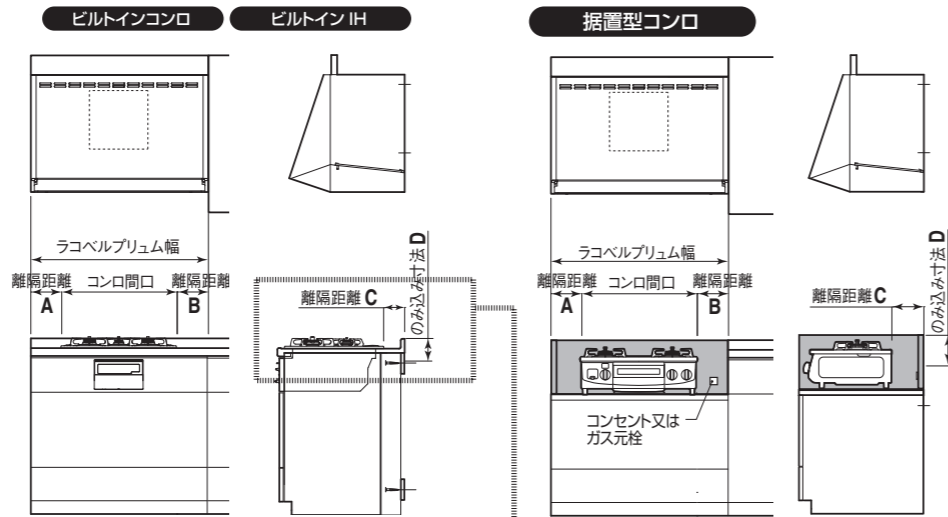
割り付け前の確認

⚠ラコベルブリュムは不燃材料認定取得製品ですが、火気設備の周囲に施工する場合は「熱割れ」防止のため、指定の離隔距離を守って施工する必要があります。

⚠ガラスのみ込み寸法は、「天板またはバックガードの同一面に施工(ガラスのみ込み寸法=0)または、「のみ込み代(正面後方:60mm以上/側方:100mm以上)」が必要です。

⚠下図ののみ込み寸法に従い、施工していただく必要があります。

⚠火気設備の種類に応じた離隔距離とのみ込み代をお守りください。



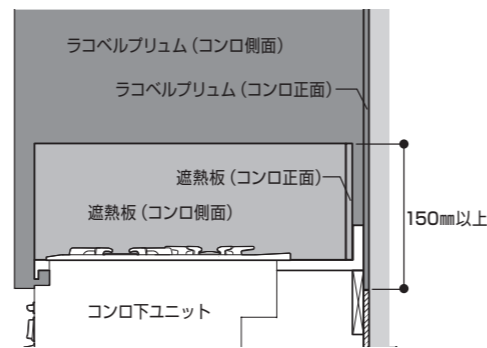
- チェックリスト**
- ①ガラスのみ込み寸法は:「天板またはバックガードの同一面に施工(ガラスのみ込み寸法=0)または、「のみ込み代(正面後方:60mm以上/側方:100mm以上)」が必要です。
 - ②以下の条件に適合すれば、ラコベルブリュムの施工が可能です。
 - ③以下の条件に適合しない場合は、自立式の遮熱板を使用してください。

		ビルトインガスコンロ			ビルトインIH	据置型コンロ			
		コンロ間口:600mm		コンロ間口:750mm					
離隔距離A・B・C		A:150mm以上	B:150mm以上	C:100mm以上	A:75mm以上	B:75mm以上	C:100mm以上	製造メーカーの指定する値	A:B:C:150mm以上
のみ込み寸法D	後方 ※1	・60mm以上 ・バックガードがある場合は0mmまたは60mm以上			・60mm以上 ・バックガードがある場合は0mmまたは60mm以上	60mm以上	60mm以上 ※2		
	側方 ※1	100mm以上			100mm以上	100mm以上	100mm以上		

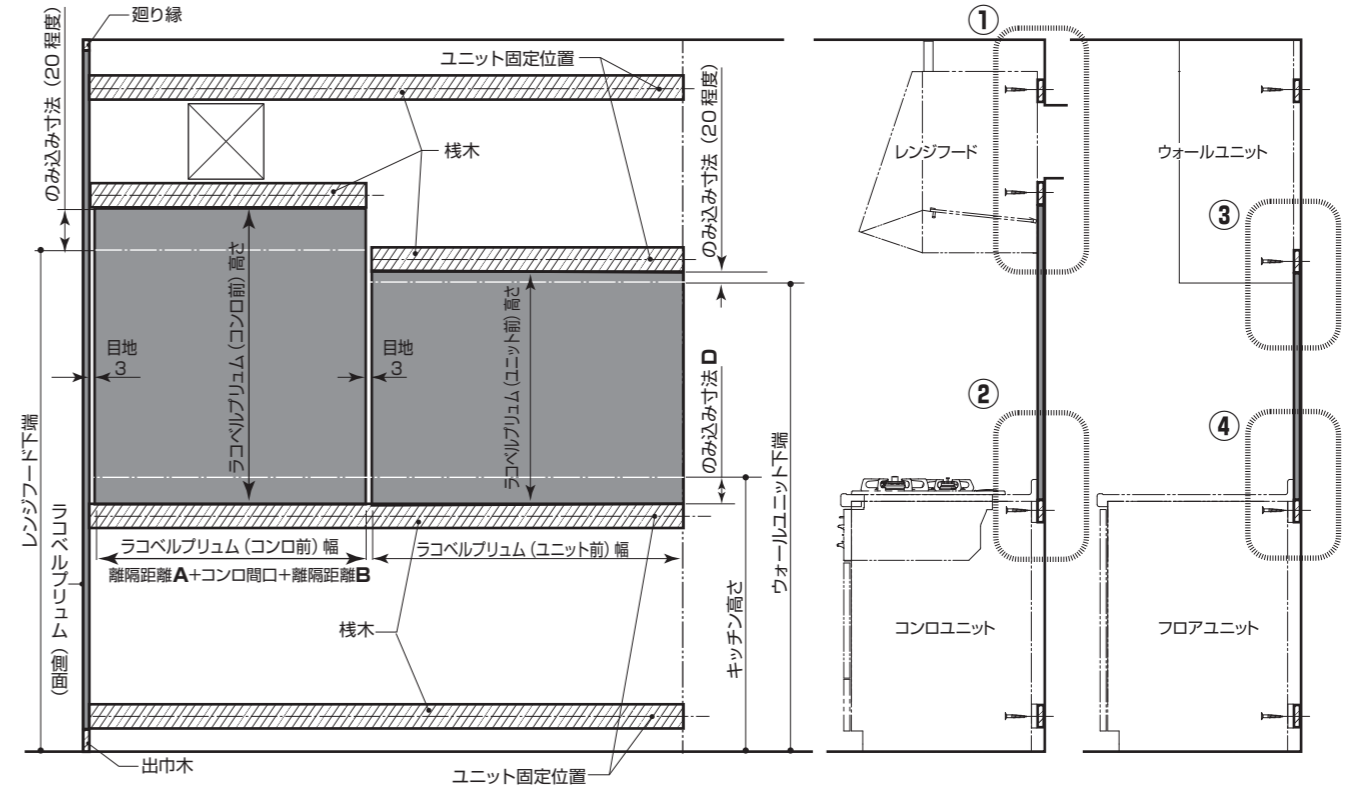
- ※1. 必要のみこみ寸法Dは後方60mm以上、バックガードがある場合は0mmまたは60mm以上、側方100mm以上です。
- ・バックガードがある場合はバックガードの上端からラコベルブリュムの下端までの寸法
 - ・バックガードがない場合はワークトップの表面からラコベルブリュムの下端までの寸法
 - ・ラコベルブリュムの上にねじ止めはできません。ユニット固定ねじ位置がラコベルブリュムに掛からないことをご確認ください。
- ※2. ラコベルブリュムの切り欠き、穴あけはできません。コンセント・ガス栓位置はラコベルブリュムの下端より下に設置してください。
- ※以上の条件を満たしても直接炎がラコベルブリュムに当たらないようご注意ください。

遮熱板を使用する場合

- ⚠ラコベルブリュムが高熱にさらされると、「熱割れ」のおそれがあります。コンロ前では、ラコベルブリュムの端部から150mm以上隠れるような遮熱板(ステンレス板)を設置してください。(正面・側面)
- ⊘遮熱板は、ラコベルブリュムに全面接着させないでください。



割り付けの基本



1. 目地処理

- ⊘突き付け施工はできません。シーリング目地(目地幅=0.5mm以上)としてください。
- ⊘目地材・見切り材はコンロ周りでは使用しないでください。

2. コンロ周りの割り付け

- コンロ周りのラコベルブリュムの幅は、**離隔距離A+コンロ間口+離隔距離B**以上とします。
- ワークトップより600mmの高さまでは目地を入れないでください。(IHの場合は800mm以上)
- ⚠離隔距離内に目地を入れると熱割れの危険性があります。
- のみ込み代(後方:60mm以上、バックガードがある場合は0mmまたは60mm以上/側方:100mm以上)が必要です。
- ⚠指定値以下ですと熱割れの危険性があります。
- ⚠ラコベルブリュムの切り欠き、穴あけはできません。(P10参照)

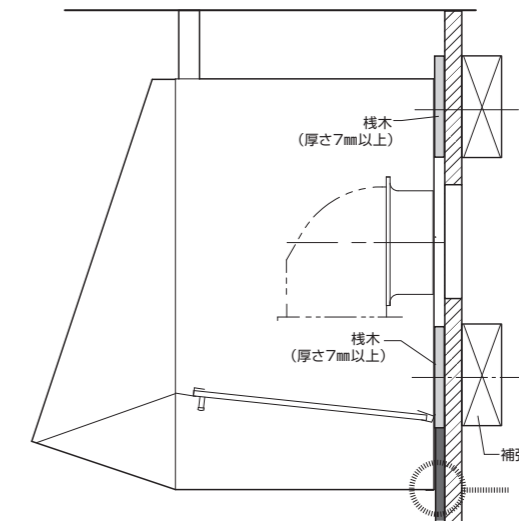
3. 棧木(現場調達)

- ラコベルブリュムの上端・下端部分に棧木(厚さ7mm以上)を設置してください。

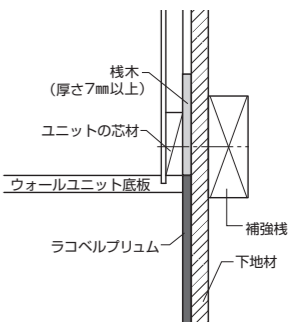
4. 廻り縁・出巾木(現場調達)

- 廻り縁・出巾木は厚さ7mm以上を設置してください。

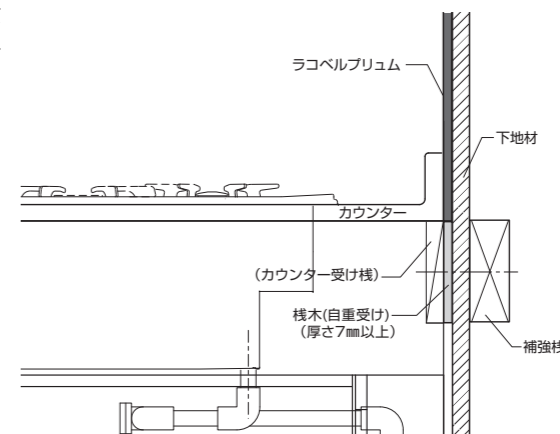
①レンジフード部



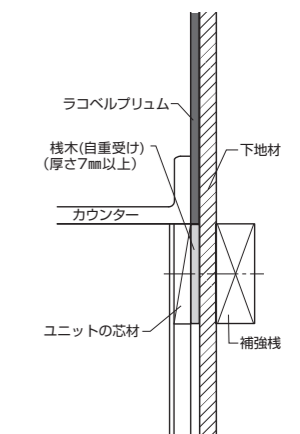
③ウォールユニット下部



②コンロユニット上部



④フロアユニット上部



●お問い合わせ

AGC株式会社 建築ガラス アジアカンパニー

(製造・販売元) AGCグラスプロダクツ株式会社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-24-11 グローバル・ワン上野

AGCが運営する建築ガラス総合サイト「ガラスプラザ」
<https://www.asahiglassplaza.net/>

